

中央大学創立125周年記念サイトでは、「歴史で辿る中央大学」として、本学の歴史にまつわる様々なエピソードを紹介しています。今まで知らなかった中央大学の新たな一面を発見してみたいはかがでしょうか？

〔Society〕 白門を開いて

1898
「明治31」



長谷川如是閑

学問の自由を主張した 長谷川如是閑

本名長谷川万次郎。この年卒業後、日本新聞社などを経て、1908年大阪朝日新聞社に入社。「天声人語」の執筆などで活躍。1918年の「白虹事件*1」により編集幹部だった如是閑は退任。翌年雑誌『我等』を創刊し、「森戸事件*2」では学問・研究の自由、大学の自治の主張を同誌上で展開した。その後も一貫して国家主義を批判し、自由主義思想に基づいた著作活動を続けた。大正デモクラシー期の代表的論客の一人である。1928年初めての普通選挙では、軍閥内閣による野党候補に対する妨害を、激しく批判している。戦後、文化勲章受章、東京都名誉都民となる。1950年中大理事会顧問、中大白門ジャーナリストクラブ顧問就任。1969年没。享年95。

*1 内乱を示唆する記事を掲載したとして政府から弾圧を受ける。

*2 東京帝大助教授であった森戸辰男が、無政府主義者クロボトキンの研究によって起訴された事件。主任弁護士には花井卓蔵らがあり、如是閑もジャーナリズムの立場からこれを擁護した。

Time Machine Topics 〔民法全編施行〕

民法典論争で施行が延期されていた民法は、この年全編が施行される。

この他にも「わたしと中央大学」では、各界で活躍中の本学にゆかりのある方のエピソード紹介や皆さんからのエピソード投稿も受け付けています。ぜひ、皆さんのとってきおきのエピソードを投稿してみてください。

中央大学創立125周年記念サイト <http://chuo125.jp>

編集室

東北地方太平洋沖大地震で被災された皆さまに、衷心よりお見舞いを申し上げます。新入生のみなさんのなかには、被災された方も少なからずいることと思いますが、ぜひ先を見据え、有意義な大学生活を送られることを祈念いたします。

ひとつ提案があります。それは漠然と過ごすことなく、問題意識を持つように心がけてほしいということですね。人生、いつ何時、どんな問題に直面するかわかりません。そんなとき問題意識を持つ習慣を身につけていけば、優先順位をつけて、いま何をしたらいいかが見えてきて、解決への糸口につながると思うからです。春季号からの新シリーズ「『志』を高く！〜炎（も）える中大生〜」は、

タイトル通り、問題意識をもって果敢に高峰に挑んでいる中大生の紹介です。

今号で紹介している「キャリア支援チーム『E3』」は、「中大生は社会と関わり、視野を広げる必要がある」との問題意識に立ち、就職活動を迎えた3年生をサポートする行動を起こしました。成果は二の次でした。ま

まず行動することで、次のステップを目指そうというわけです。問題意識をもつ。そして、できることから行動に移す。そうすれば、いつか高峰も手の届くところに見えるのではないでしょうか。本誌では、志を高く掲げて「炎える中大生」を紹介していきます。新入生のみなさんの中からも「炎える中大生」が沢山出てくることを期待しています。（編集長 伊藤博）

学生記者が取材・編集する大学広報誌

Hakumon

Chuo
ちゅうおう

2011

春季号

2011年(平成23年)4月1日発行 No.221

発行 中央大学広報室

〒192-0393
東京都八王子市東中野742-1

〈編集担当〉

『Hakumonちゅうおう』編集室

☎042-674-2048

印刷 泰成印刷株式会社
〒130-0026
東京都墨田区両国3-1-12
☎03-3631-8141